

単 独

設 計 図 書
(特記仕様書・位置図・工事数量総括表)

2025 年度施行

泉2号通り道路改良工事

留萌市

特

記

仕

様

書

特記仕様書

- 20 一般事項
01 適用
01 共通仕様書
- 当該工事は、『北海道建設部土木工事共通仕様書』（以下「土木工事共通仕様書」という。）に基づき施工すること。
- 02 土木工事積算基準等
- 1 当該工事の設計図書は、北海道建設部が制定した次の積算基準等に基づき作成している。
 - (1) 一般土木工事
「土木工事積算要領」、「土木工事積算基準」、「土木工事工種体系化の手引き」
 - (2) 漁港工事
「漁港関係工事積算基準」、「漁港関係工事工種体系化の手引き・数量算出要領」
 - (3) 下水道工事
「土木工事積算要領（下水道編）」、「土木工事積算基準」、「下水道工事工種体系化の手引き・数量算出要領」
 - 2 「土木工事積算基準」及び「漁港関係工事積算基準」において定めている諸基準に基づき次のとおり扱っている。
 - (1) 機械施工と人力施工等の施工方法や区分は設計図面等から判断し、機械施工が困難である場合を除き、機械施工を標準として積算している。
 - (2) 特記仕様書等で別途明示している場合を除き、各基準において定めている標準工法・標準機種で積算している。
 - (3) 上記（１）（２）については、受注者の任意施工を拘束するものではない。
ただし、現場条件等がこれにより難しい場合には、必要に応じて設計変更する。
 - 3 「土木工事工種体系化の手引き」、「漁港関係工事工種体系化の手引き」及び「下水道工事工種体系化の手引き」において定めている事項を、設計図書の規格・摘要欄に明示しているが現場条件等に差異が生じた場合には、設計変更の対象とする。
 - 4 当該工事の数量算出書は、北海道建設部が制定した次の土木工事数量算出要領等に基づき作成している。
 - (1) 一般土木工事
「土木工事数量算出要領」
 - (2) 漁港工事
「漁港関係工事工種体系化の手引き・数量算出要領」
 - (3) 下水道工事
「下水道工事工種体系化の手引き・数量算出要領」

特記仕様書

03 概数

- 1 「概数として扱う数量一覧表」に示した数量は概数である。概数として扱う事項の施工に当たっては、施工後でなければ数量の確認ができない場合を除き、現地調査終了後速やかに工事監督員と協議し、数量の確定を行い着手すること。
- 2 概数の確定により数量の変更が生じた場合には、設計変更により処理する。
なお、設計に対して過大な出来形数量に変更するものではないことに留意すること。
- 3 「概数として扱う数量一覧表」で示した仮設工の工事数量は、標準的な工法により算出したものであるため、取り合い等によって新たに必要となる項目についても概数として扱う場合がある。
- 4 当該工事において、設計変更図書の作成（設計変更図面の作成及び工事数量の算出）を受注者に行わせることがある。

04 非契約数量

工事数量総括表の単位及び数量が（ ）で表記されている数量（摘要を含む）は、契約事項とならない数量である。
ただし、契約数量に連動して概数の確定や現場条件変更等が生じた場合には、必要に応じて設計変更する。

01 工期設定について

工期：2025年5月21日から2025年9月10日まで

工期には、施工に必要な実日数（実働日数）以外に以下の事項を見込んでいる。

①準備期間：40日間

②後片付け期間：20日間

③雨休率（実働工期日数に休日と悪天候により作業が出来ない日数を見込むための係数 実働日数×係数）：1.68

※上記の他、特別に見込んでいる日数や特別に工期に影響のある事項があれば記載する。

01 時間的制約を求められた場合の報告

当該工事の施工に当たり、関係機関・自治体等から通勤・通学の時間帯や周辺地域の状況により、時間的制約等を求められた場合には

特記仕様書

、工事監督員に報告すること。

04 市水道局との立会い

当該工事区間には留萌市上下水道課の水道管、下水道管が埋設されている。施工に先立ち、工事監督員から埋設占用物の参考図面を受領するとともに、その埋設位置、深さなどの詳細は必ず留萌市上下水道課に問い合わせを行い、必要に応じて立会等を求めること。

01 地下埋設物の管理者等との立会い

当該工事の施工に当たっては、地下埋設物の管理者等との現地立会を行い、当該物件の位置、深さ、保安対策等の打合せを行うこと。なお、「立会い打ち合わせ調書」等にその打ち合わせ内容と結果を記載して立会い者等に押印を求め、当該調書の写しを工事監督員に提出すること。

01 中間検査

1 当該工事は、次の段階で中間検査を実施する。

(1) 土木工事共通仕様書 第1編 第1章 1-1-1-23 表1-1によるもの。

(2) 次の項目については、段階確認（上記（1）以外）を実施する。

1. 掘削完了後の掘削床の幅

2. 砕石基礎の幅

3. 路盤工の幅、厚さ

4. 土工（掘削工）の際、土（岩）質の変化した時点

なお、上記以外で、必要に応じて中間検査を追加することがあるが、その時は事前に受注者へ通知する。

2 中間検査の実施に当たっては、実施可能日の7日前までに工事監督員に報告すること。

01 交通安全管理の仕様

交通安全管理については、設計図等に基づくものとする。

なお、地域住民・警察との協議、関連工事との調整等により変更の必要が生じた場合には、工事監督員と協議すること。

特 記 仕 様 書

04 交通処理計画の提出

当該工事は片側交互通行規制、又は路肩車線規制（車両、昼間）を行い施工を計画しているが、交通処理は土木工事共通仕様書及び着手前に現地状況等を確認のうえ、交通処理計画を作成し工事監督員と協議して対応すること。

規制の基本的な考え方は次のとおりとする。

- 1 車道部に係る作業：片側交互通行規制
- 2 路肩部に係る作業：路肩通行規制

06 バリケード等の設置、誘導警備員の配置

当該工事箇所の近隣には、公園、住宅等があるため、第三者が工事区域内へ侵入しないようバリケード・保安灯を設置すること。また、配置については、北海道開発局保安施設設置標準図に基づき適正に配置すること。

01 交通誘導警備員の配置（片側交互通行）

当該工事の施工に当たっては、片側交互通行を予定している。次の作業期間中は交通誘導警備員を配置するものとし、施工区間前後に1名ずつ配置し、交通誘導員2名を見込んでいる。

なお、毎日の作業終了後は現況幅員程度を確保することとし、一般交通等に支障がないよう安全対策を講じること。

04 仮歩道の設置

仮歩道は、W=2.0m以上を確保することとし、構造等の詳細については、工事監督員と事前に協議すること。

01 発生土の搬出先

当該工事の発生土は、小平町農業振興（有）（片道運搬距離：14.5km）に搬出し、場内の定められた位置に荷卸し、数量管理または台数管理が行える状態とすること。また工事期間は適正に管理すること。

なおヤード利用詳細については、事前に工事監督員と協議すること。

特記仕様書

02 コンクリート再生骨材について

- 1 コンクリート再生骨材を路盤用材料等に使用する場合の品質確保については、「土木工事共通仕様書」による。
- 2 コンクリート再生骨材の品質管理は、製造者の試験成績結果によることができる。
確認の頻度は、製造施設毎に年1回以上とする。ただし、品質に変動が見受けられる場合は、確認の頻度を増やすなど考慮すること。
なお、品質については、事前に確認すること。
- 3 コンクリート再生骨材を路盤等に使用の場合は、基本的に100%で使用するものとする。
施工時期が確定した時点で、再資源化施設に供給量の確認を行い、施工協議簿に別途配布の「再生骨材の出荷確認について」の写しを添付し、工事監督員に報告すること。

03 コンクリート再生骨材の使用（再生骨材単価が、再資源化施設渡し単価で設定されている地域）

当該工事におけるコンクリート再生骨材の使用については、次のとおりとする。

- 1 コンクリート再生骨材：0～40mm級（下層路盤、基礎材）
- 2 コンクリート再生骨材：0～80mm級（凍上抑制層、基礎材）

また、再資源化施設については、コンクリート再生骨材：0～40mm級は株式会社産業廃棄物処理センター（片道運搬距離：3.2km、）、コンクリート再生骨材：0～80mm級は貝森工業株式会社リサイクルプレイス（片道運搬距離：5.4km）を予定しているが、受注後ただちに再資源化施設に供給量の確認を行い、施工協議簿に別途配布の「再生骨材の出荷確認について」の写しを添付し、工事監督員に報告すること。

01 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律

この工事は「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（平成12年法律第104号、以下「建設リサイクル法」という）」に基づき、分別解体等及び特定建設資材廃棄物の再資源化等の実施が義務付けられた工事である。

特記仕様書

- 01 舗装の切断作業時に発生する排水について
舗装切断作業に伴い、切断機械から発生する排水については、排水吸引機能を有する切断機械等により回収するものとする。
回収された排水については、関係機関等と協議の上、適正に処理するものとし、必要と認められる経費については設計変更の対象とするため、必要な資料を提出の上、工事監督員と協議すること。
- 02 特定建設資材廃棄物の処理条件
分別解体等によって発生する特定建設資材廃棄物（コンクリート塊、アスファルト塊）は、次のとおり再資源化等を実施することとするが、受注者において適正な処理施設を選定し、施工計画書に建設廃棄物における適正処理計画について記載すること。また、処分場所については積算上の条件明示であり、処分場所を指定するものではない。なお、受注者の提示する処理施設と積算上想定している処理施設が異なる場合においても設計変更の対象としない。ただし、現場条件や数量の変更等、受注者の責によるものでない事項についてはこの限りではない。また、変更が生じた場合は、必要な資料を提出の上、工事監督員と協議すること。
- 1 アスファルト塊
(1) 処分場所 : ハラダ工業株式会社大和田事務所（受入可能な施設のうち、積算上運搬費等も含めて一番安価な処理施設を想定）
(2) 運搬距離 : 片道運搬距離4.8km
(3) 処理方法 : 再資源化
(4) 受入条件 : アスファルト塊
- 2 コンクリート塊
(1) 処分場所 : 株式会社産業廃棄物処理センター（受入可能な施設のうち、積算上運搬費等も含めて一番安価な処理施設を想定）
(2) 運搬距離 : 片道運搬距離3.2km
(3) 処理方法 : 再資源化
(4) 受入条件 : 無筋コンクリート塊・鉄筋コンクリート塊
- 03 建設副産物の処理条件
当該工事の施工により発生する建設副産物の処理については、次のとおりとするが、受注者において適正な処理施設を選定し、施工計

特記仕様書

画書に建設副産物における適正処理計画について記載すること。また、処分場所については積算上の条件明示であり、処分場所を指定するものではない。なお、受注者の提示する処理施設と積算上想定している処理施設が異なる場合においても設計変更の対象としない。ただし、現場条件や数量の変更等、受注者の責によるものでない事項についてはこの限りではない。また、変更が生じた場合は、必要な資料を提出の上、工事監督員と協議すること。

1 建設汚泥

- (1) 処分場所 : (株)ネオリサイクル第3工場 (受入可能な施設のうち、積算上運搬費等も含めて一番安価な処理施設を想定)
- (2) 運搬距離 : 片道運搬距離4.0km
- (3) 処理方法 : 再資源化
- (4) 受入条件 : 含水比85%以上

02 現場発生品の引渡し

既存施設の撤去により生じた現場発生品は、次の場所まで運搬のうえ引渡すこと。

なお、下記以外の材料が発生した場合は、工事監督員の指示によること。

1 現場発生品名：鉄くず

- (1) 引渡場所：留萌市土木車両センター (片道運搬距離5.0km)

01 現場代理人の常駐義務緩和について

- 1 現場代理人は、原則として当該建設工事の着手日から完成届の受理日まで工事現場に常駐し、運営取締りを行うものとする。ただし、次のいずれかに該当する期間は、工事現場に常駐を要しないことができるものとする。

(1) 契約締結後、現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間

(2) 建設工事の全部を一時中止している期間

(3) 上記に掲げる期間のほか、工事現場において作業等が行われていない期間

- 2 次の各号のすべてに該当する場合に、現場代理人の兼務を認めるものとする。ただし、現場の状況等を考慮し、現場代理人を兼務することが適当でないと認めたときは、この限りでない。

特記仕様書

- (1) 兼務する建設工事と関連性がある建設工事若しくは、同一の工種の建設工事であること。
- (2) 兼務する建設工事の請負金額が4, 500万円（建築一式工事9, 000万円）未満であること。
- (3) 兼務ができる工事は、原則3件以内であること。ただし、災害復旧工事については、別途協議により決定する。
- (4) 兼務する工事は、原則、留萌市内の公共工事であること。
- (5) 工事監督員と常に連絡が取れる体制を確保できること（携帯電話や連絡責任者の配置）。
- (6) 現場代理人は、兼務するいずれかの工事現場に常駐すること。

- 3 受注者は、同一の現場代理人を複数工事現場に配置しようとする場合は、現場代理人兼務届出書（別途様式第1号）を、市長に提出するものとする。

02 完成図（出来形総括図）

完成図（出来形総括図）：別途定める作成要領に基づき、完成図等を作成し、成果品として提出すること。なお、これに係る

費用は共通仮設費[率分]のうち技術管理費に含まれている。

01 設計図書に明示のない取扱い

設計図書に定めのない事象が生じた場合は、工事監督員と別途協議をすることとし、必要に応じて設計変更を行う。

概数として扱う数量一覧表

		工事名	泉2号通り道路改良工事	当初	事業区分	道路新設・改築		
					工事区分	道路改良		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	前回数量	今回数量	数量増減	摘要
道路改良				式		1		
構造物撤去工				式		1		
運搬処理工				式		1		
殻運搬			無筋コンクリート DID:有 運搬距離:3.2km	m3		3		概数
殻運搬			鉄筋コンクリート DID:有 運搬距離:3.2km	m3		10		概数
殻運搬			舗装版破碎 厚さ:15cm以下 DID:有り 運搬距離:4.8km	m3		2		概数
殻処分			コンクリート殻（無筋）	m3		3		概数
殻処分			コンクリート殻（鉄筋）	m3		10		概数
殻処分			アスファルト殻	m3		2		概数
殻処分			汚泥（切断水）	m3		0.02		概数

位 置 図

位置図

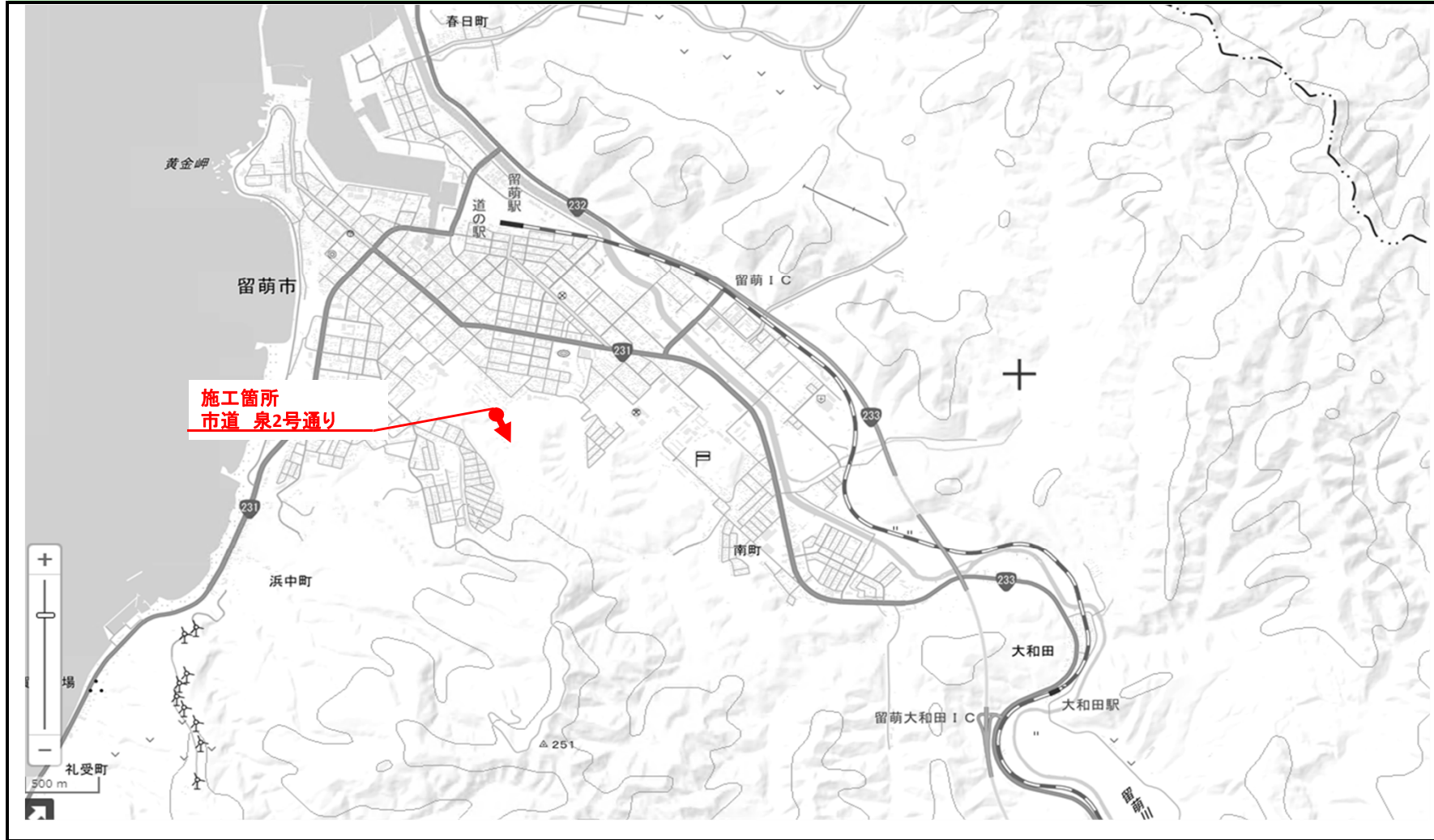
工事名	泉2号通り道路改良工事																			
施工箇所	留萌市泉町 2 丁目																			
範囲	起	点	北緯	度	分	秒	東経	度	分	秒	終	点	北緯	度	分	秒	東経	度	分	秒

※工事箇所の住所については施工起点の左側の住所としています。

※緯度経度については、世界測地系であり地理院地図を利用した簡易測定結果。



図面は上が北です



- <凡例>
- 旗揚線
- 施工箇所
留萌市
- 施工箇所塗り（丸印が起点）
- 建設副産物の仮置箇所
- 残土処理場箇所・仮置箇所
- 土取場箇所・発生土受渡箇所
- その他指定する箇所（仮設ヤード等）
- 輸送起点等
- 表示情報（表示している情報は■）
- ☒ 施工箇所・施工範囲
 - ☐ 建設副産物の仮置箇所
 - ☐ 残土処理場
 - ☐ 仮置場
 - ☐ 土取場
 - ☐ 発生土受渡箇所
 - ☐ 輸送起点箇所
 - ☐ その他

備 考

工 事 数 量 総 括 表

工事名	泉2号通り道路改良工事
-----	-------------

留萌市

工事数量総括表

		工事名	泉2号通り道路改良工事			(当 初)	事業区分	道路新設・改築		
							工事区分	道路改良		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	摘要		
								現場条件		単位
道路改良				式		1				
道路土工				式		1				
掘削工				式		1				
掘削 [流用土]			土質：土砂、施工方法：オープンカット、押土の有無：無し、障害の有無：無し、施工数量：5,000m ³ 未満			20		< 1 m ³ 当たり > 掘削	m ³	1
掘削			土質：土砂、施工方法：オープンカット、押土の有無：無し、障害の有無：無し、施工数量：5,000m ³ 未満			210		< 1 m ³ 当たり > 掘削	m ³	1
土砂等運搬			土砂等発生現場：標準、積込機種・規格：バックホ山積0.80m ³ 、土質：土砂(岩塊・玉石混り土含む)、DID区間の有無：有 運搬距離：14.5 k m 【ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 10 t 積級】 【タイヤ損耗費 10 t 積級 良好 供用日 】			210		< 1 m ³ 当たり > 土砂等運搬	m ³	1

工事数量総括表

		工事名	泉2号通り道路改良工事			(当 初)	事業区分	道路新設・改築		
							工事区分	道路改良		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	摘要		
								現場条件	単位	数量
土砂等運搬			土砂等発生現場：小規模、積込機種・規格：ハッパ山積0.28m ³ m ³ 、土質：土砂(岩塊・玉石混り土含む)、DID区間の有無：有 運搬距離：14.5 k m 【ダンプトラック【オンロード・ディーゼル】 4 t 積級】 【タイヤ損耗費 4 t 積級 良好 供用日】			20		< 1 m ³ 当たり > 土砂等運搬	m ³	1
路床盛土工				式		1				
路床盛土			2.5m未満	m ³		20		< 1 m ³ 当たり > 路床盛土	m ³	1
法面整形工				式		1				
法面整形(切土部)			切土部 現場制約：無 土質：レキ質土、砂及び砂質土、粘性土	m ²		20		< 1 m ² 当たり > 法面整形	m ²	1
法面整形(盛土部)			盛土部 締固：有 現場制約：無 土質：レキ質土	m ²		10		< 1 m ² 当たり > 法面整形	m ²	1
路面工内法面整形			切土部 現場制約：無 土質：レキ質土、砂及び砂質土、粘性土	m ²		10		< 1 m ² 当たり > 法面整形	m ²	1
残土処理工				式		1				
残土等処分			【残土受入費(埋立) 地方資材単価 受入場所：小平町花岡76番地】	m ³		230		< 1 m ³ 当たり > 残土等処分	m ³	1.2

工事数量総括表

		工事名	泉2号通り道路改良工事			(当 初)	事業区分	道路新設・改築		
							工事区分	道路改良		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	摘要		
								現場条件		単位
法面工				式		1				
植生工				式		1				
張芝			張芝工100m2未満	m2		70		< 1 m2当たり > 人力施工による植生工	m2	1
排水構造物工				式		1				
作業土工				式		1				
(床掘り)			土質：土砂 小規模	(m3)		(90)		< 1 m3当たり > 床掘り	m 3	1
(埋戻し)			土砂：土砂 小規模	(m3)		(70)		< 1 m3当たり > 埋戻し	m 3	1
側溝工				式		1				
プレキャストU型側溝			側溝種類：U180(再設置) 【再生骨材0～40mm級+運搬費D=m 3.2km(標準、土砂) バックホ ウ山積0.8m3D1D区間有(3月単 価適用) 】			2		< 1 m当たり > U型側溝	m	1

工事数量総括表

		工事名	泉2号通り道路改良工事			(当 初)	事業区分	道路新設・改築		
							工事区分	道路改良		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	摘要		
								現場条件	単位	数量
プラスチックU型側溝			側溝種類：U300B（新材） 【U型側溝 300B 2000mm/個 m 参考質量264kg/個 ロングタイプ エ コラック コンクリート対応品含む】【再 生骨材0～40mm級+運搬費D=3.2k m(標準、土砂) バックホウ山 積0.8m3DID区間有（3月単価適 用） 】			151		< 1 m当たり > U型側溝	m	1
プラスチックU型側溝			側溝種類：横断用側溝（T-25, 受枠付U300ボルト固定・蓋含ま ず） 【横断用側溝 T - 2 5 , 受枠 付 U 3 0 0 B ボルト固定・ 蓋含まず 】【再生骨材0～40m m級+運搬費D=3.2km(標準、土砂) バックホウ山積0.8m3DID区 間有（3月単価適用） 】			9		< 1 m当たり > U型側溝	m	1
管(函)渠型側溝			側溝種類：U型ボックスカルバ ート T-25 300×300×1000 m 【U型ボックスカルバート T - 2 5 3 0 0 × 3 0 0 × 1 0 0 0 】			6		< 1 m当たり > 管（函）渠型側溝	m	1
管(函)渠型側溝			側溝種類：U型ボックスカルバ ート（コンクリート基礎） T-25 300 m ×300×1000 【U型ボックスカルバート T - 2 5 3 0 0 × 3 0 0 × 1 0 0 0 】【生コンクリート 混 合B種 C 4 】【再生骨材 0～40mm級+運搬費D=3.2km(標準 、土砂) バックホウ山積0.8m 3DID区間有（3月単価適用） 】			5		< 1 m当たり > 管（函）渠型側溝 コンクリート 型枠 基礎砕石	m m 3 m 2 m 2	1 0.06 0.2 0.8

工事数量総括表

		工事名	泉2号通り道路改良工事			(当 初)	事業区分	道路新設・改築		
							工事区分	道路改良		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	摘要		
								現場条件	単位	数量
側溝蓋			区分:2種 溝幅:U300 種類:コンクリート蓋 新材 【U形用蓋(2種) 30040×10×60 参考質量54kg/個 車道用】	枚		252		< 1 枚当たり > 蓋版	枚	1
側溝蓋			区分:2種 溝幅:U300 種類:グレート蓋 新材 【溝蓋 溝幅300mm T-25 騒音防止用 995×400×60mm すべり止め型 参考質量49.8kg/組 ボルト固定ゴム付】	枚		9		< 1 枚当たり > 蓋版	枚	1
集水樹・マンホール工				式		1				
プレキャスト集水樹			プレキャスト材種類:I-A上部樹(H=70cm) 作業区分:設置 【下部樹[見積策定単価] 840×840×700mm 644kg】	箇所		10		< 1 箇所当たり > プレキャスト集水樹 プレキャスト集水樹(材料費)	基 基	1 1
プレキャスト集水樹			プレキャスト材種類:I-A下部樹(H=100cm) 作業区分:設置 【下部樹 型A 840×840×1000mm 参考質量759kg/個】	箇所		2		< 1 箇所当たり > プレキャスト集水樹 プレキャスト集水樹(材料費)	基 基	1 1
プレキャスト集水樹			プレキャスト材種類:I-A中間樹(H=20cm) 作業区分:設置 【中間樹 型A 840×840×200mm 参考質量179kg/個】	箇所		1		< 1 箇所当たり > プレキャスト集水樹 プレキャスト集水樹(材料費)	基 基	1 1

工事数量総括表

		工事名	泉2号通り道路改良工事		(当 初)	事業区分	道路新設・改築		
				工事区分	道路改良				
工事区分・工種・種別・細別		規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	摘要		
							現場条件	単位	数量
プレキャスト集水樹		プレキャスト材種類：I-A下部樹（H=25cm） 作業区分：設置 【中間樹 型A 840×840×250mm 参考質量220kg/個】	箇所		1		< 1 箇所当たり > プレキャスト集水樹 プレキャスト集水樹（材料費）	基 基	1 1
蓋		蓋種類：鋼製・T-25・I-A樹・下部樹用・普通目 【樹蓋 鋼製 T-25 型A下部樹用 普通目 710×710×71mm 参考質量 60kg/枚 R-5】	枚		12		< 1 枚当たり > 蓋版	枚	1
地下排水工			式		1				
地下排水		規格：合成樹脂波状管 200mm 【合成樹脂管 波状管 200mm 無孔管 耐圧強度2300N/m以上 可とう性35mm/50N以上 長さ4m/本導水用にも適用可】			1		< 1 m当たり > 暗渠排水管	m	1
構造物撤去工			式		1				
構造物取壊し工			式		1				
コンクリート構造物取壊し		構造物区分：無筋構造物	m3		3		< 1 m3当たり > 構造物とりこわし	m 3	1
コンクリート構造物取壊し		構造物区分：鉄筋構造物	m3		10		< 1 m3当たり > 構造物とりこわし	m 3	1
舗装版切断		舗装版種別：アスファルト、舗装版厚：15cm以下	m		19		< 1 m当たり > 舗装版切断	m	1

工事数量総括表

		工事名	泉2号通り道路改良工事			(当 初)	事業区分	道路新設・改築		
							工事区分	道路改良		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	摘要		
								現場条件		単位
舗装版破碎			舗装版種別：アスファルト、舗装版厚：15cm以下	m2		63		< 1 m2当たり > 舗装版破碎		m 2 1
組立マンホール工				式		1				
組立1号マンホール			規格：1号マンホール 蓋種類：650S 調整高：2cm切下げ	箇所		1		< 1 箇所当たり > 蓋(受枠とも) 調整コンクリートブロック据付工		組 1
組立1号マンホール			規格：1号マンホール 蓋種類：650S 調整高：1cm嵩上げ	箇所		1		< 1 箇所当たり > 蓋(受枠とも) 調整コンクリートブロック据付工		組 1
運搬処理工				式		1				
殻運搬			無筋コンクリート DID:有 運搬距離:3.2km 【ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 1 0 t 積級 】【タイヤ損耗費 1 0 t 積級 良好 供用日 】	m3		3		< 1 m3当たり > 殻運搬		m 3 1
殻運搬			鉄筋コンクリート DID:有 運搬距離:3.2km 【ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 1 0 t 積級 】【タイヤ損耗費 1 0 t 積級 良好 供用日 】	m3		10		< 1 m3当たり > 殻運搬		m 3 1
殻運搬			舗装版破碎 厚さ:15cm以下 DID:有り 運搬距離：4.8km 【ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 1 0 t 積級 】【タイヤ損耗費 1 0 t 積級 良好 供用日 】	m3		2		< 1 m3当たり > 殻運搬		m 3 1

工事数量総括表

		工事名	泉2号通り道路改良工事		(当 初)	事業区分	道路新設・改築		
						工事区分	舗装		
工事区分・工種・種別・細別		規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	摘要		
							現場条件	単位	数量
舗装準備工			式		1				
不陸整正		補足材料：無	m2		514		< 1 m2当たり > 不陸整正	m 2	1
アスファルト舗装工			式		1				
凍上抑制層（車道部）		路盤材種類:コンクリート再生骨材0～80mm級 仕上り厚:15cm 【再生骨材0～80mm級+運搬費D=5.4km（標準、土砂） バックホウ山積0.8m3DID区間有（3月単価適用）】	m2		479		< 1 m2当たり > 下層路盤（車道・路肩部）	m 2	1
下層路盤(車道・路肩部)		路盤材種類:コンクリート再生骨材0～40mm級 仕上り厚:30cm 【再生骨材0～40mm級+運搬費D=3.2km(標準、土砂） バックホウ山積0.8m3 DID区間有(3月単価適用)】	m2		481		< 1 m2当たり > 下層路盤（車道・路肩部）	m 2	1
下層路盤(歩道部)		路盤材種類:コンクリート再生骨材0～40mm級 仕上り厚:20cm 【再生骨材0～40mm級+運搬費D=3.2km(標準、土砂） バックホウ山積0.8m3 DID区間有(3月単価適用)】	m2		39		< 1 m2当たり > 下層路盤（歩道部）	m 2	1
縁石工			式		1				
縁石工			式		1				

工事数量総括表

		工事名	泉2号通り道路改良工事			(当 初)	事業区分	道路新設・改築		
						工事区分	舗装			
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	摘要		
								現場条件	単位	数量
地先境界ブロック			舗装止縁石（民地出入口）：再設置 【生コンクリート 混合B種 C 1 】【	m		5		< 1 m当たり > 地先境界ブロック	m	1
防護柵工				式		1				
路側防護柵工				式		1				
ガードレール			塗装品 Gr-C2-2B 21m未満無 【基礎ブロック（さや管埋込） 見積策定単価】 400×400×500 207kg 】【脱着式ガードレール用さや管 見積策定単価】 139.8×4.5×600L 蓋付 溶融亜鉛めっき仕上 】【	m		10		< 10 m当たり > 防護柵設置工（ガードレール設置工） 耐雪型 基礎ブロック設置工 材料費（基礎ブロック） 材料費（基礎ブロック） 防護施設用反射シート	m 個 個 個 枚	10 4 4 4 2
標識工				式		1				
小型標識工				式		1				
標識柱			複柱式 径60.53.5m2基以下 【道路標識用基礎ブロック A 基型 500×500×700mm アンカーパイプ 76.3×3.2×800mm 】【	基		2		< 1 基当たり > 標識柱・基礎設置（路側式）	基	1

工事数量総括表

		工事名	泉2号通り道路改良工事			(当 初)	事業区分	道路新設・改築		
						工事区分	舗装			
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	摘要		
								現場条件	単位	数量
標識板			2.0m2未満 【案内標識板 路側式 単柱・枚 複柱用】			1		< 1 枚当たり > 標識板設置 (警戒・規制・指示・路線番号標識)	基	1
								材料費 (m2)	m2	0.72
道路付属施設工				式		1				
道路付属物工				式		1				
視線誘導標			伸縮型 (ワンタッチ式) 地上高 2700mm 【視線誘導標 伸縮型 (ワンタッチ式) 地上高270cm (白・赤) 上部 60.5*2.3mm 下部 76.3*2.8mm 】	本		2		< 1 本当たり > 道路付属物設置工 (視線誘導標設置)	本	1
直接工事費				式		1				
共通仮設費				式		1				
共通仮設費 (率計上)				式		1				
純工事費				式		1				
現場管理費				式		1				

工事数量総括表

		工事名	泉2号通り道路改良工事			(当 初)	事業区分	道路新設・改築		
							工事区分	共通仮設費		
工事区分・工種・種別・細別		規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	摘要			
							現場条件		単位	数量
工事原価			式		1					
一般管理費等			式		1					
工事価格			式		1					
消費税相当額			式		1					
工事費計			式		1					